頼信陣軍記

全

帝国図書館蔵
へ 特別
1331

1331

序

頼信朝臣武功世に著くも
当世流の美男ぶり。あり難き
はなれども。ふる女多くして平ら。
東宮蔵のひとり姫。明暮すきものの
世話焼きなれば。ひとまづ謀
と。嵯峨のうもれぶり。猶事なく
多里乃みる夢。さ

里かたハ十ばかり牡丹のさいハ蟹。
石橋の絵をぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
はるかなれども。例年出ぬ。まるめでた
き。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
多明。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
寛延三庚午のとし

作者 真矢 源
瑞矢

頼信瑞軍記　一之巻

同録

第一　係絵の鬼神　武部の出ち
新光の謀略　はる岳
とさつざかり　ゆうぢ
あり　姫なるハ　大夫の助

第二　春仙男小野小震の姫
春の面影の情のこゝろをさそ
ひ出す世男子の
心をいたましめる小姫の風

第三　源頼朝が猛勇を扶桑の松の樹
蔭に暑さをおもんぐ姫のなんぎ
をたすけ給ふ仮目源太郎
はたむ魂をたゝんと忠義の働

第一　傾城いやさらな武勇出ぶら
面白くかいてく素ぶりの男なるものいで男おりてふ
みへ出ぶ来何が投げもおそるべきぶ武の長
いたりおこり弟かあつて先ぐと伊へ恭平河海
小法師のまもる水法師
則ある紀寿一條院の法
なるけ。さんぬる永延元年。丹列大江山鬼
紀とそして人民をなやまし由。武門の棟梁源頼信
源頼義朝臣と源氏代々
弟義家の勇士ま波紀確井貞光浦名重
怪坂田公時と名そして別勅ぶ下れ

丹後守よりて丹波界とて村々もひろく平井の保昌い報恩寺
の縁ありなれば大江山の鬼内まて宣旨くだりて新とう
ちのもとに頼ふみらぬまき和泉ぬかれしと一人とそ
く鄉和泉守源頼国百人ばかりあそれ鬼新い鬼
赤い怪のものなれば武士ことに新宮朝臣はたさてこ
ふ武士の士侍もそれ軍並ふるあうて内侍ふ源
頼の所神楽とそめられしそれ人のおうこ撰ばて
鬼神うるさくて延治あるべきの所祈禱ようこと屋
につうせるへ笑ふ春乳ことはつさのよはきかしは
源頼の右直おうつく威徳ある衛府おこて
かようてみ小るおに新宮の金剛丸新宮
物語ひうんのひ家れ右力とそ新宮清の

抜ろ一振とつくそ大江山鬼神のもそ
新宮和泉の者くろ細ろくいまてひた鬼神と
陸奥の壺をていへ鬼ふるの出てそ
なるこふるまくく小四をおとやし紀伊新宮
それ鬼ものとうかはるのみくいたあく奏内のく
いろ先くはひもひるいひ伊ろ和船ち海
源ちこそ新ろしとそひるくえよかそうて新
延の寄食住ふまうあるふよ先年新ふそもそ新宮を
源頼ちそれ百職と停めれそ織肉とはいまてろ平
の泰整家ふてこ方へ東国ち新宮大江山へ
えいそろく鬼神の年小あるそ和の泉源頼基の
嫡孫ちしそ伊とそ帝伝ち即ん謀叛とはしれ先の

これハ
なんぞうで
ありませぬ
ハ
ござります子

これハ
なれとも
ごさります

門い胡延のさうへあつて。弟の[illegible]る出たる変あつて。[illegible]
畫て見をを西ゐに仰ぐこんと。鬼神の近海にやたてるよ。大に
山へらこゝろの軍の用意をなし。法忠の武士伝保信の不
知火をすゑのぐち義家の保留が来。新藤次保輔が陣中
して西海乃へおもむく西とい。さくらゐ[illegible]あつ。かゝ
捕しゆ。それ〳〵い教光が来の。一味まてたれ沢と保猫
ふやしとこぶゆ。それ次くれまるのたの。ゆしもほの西道を
まるも西国ゐくれど悪徒ゐ[illegible]ぐ平の泰盛たゝびよ
国人保輔宗門の外ひくこゝ。おくれ入くで参〳〵ゐ
ゐ軒廊ゐ〳〵ゐふひくゐ。教光の京郎よれて
ゐれ。西を居職箕西保を弘綱やむくゐゐ。ゆどゐくと
出くを人教光大沼山へまゐくゐ。まゐくゐ。[illegible]

のゐれてゐ〳〵ゐ。ゐくよあゝび盗賊のゐ領保ゐ。ゐくせ
ゐよゐくゐ。ゐくゐ。ゐまゐ。ゐ人ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐくゐ。
ゐの教光ゐ大ゐ。ゐ教ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。
ゐゐをゐよゐくて。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。
ゐゐゐくゐ。ゐゐゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。
ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。
ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。
ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。
ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。
ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。ゐ[illegible]ゐ。

れで教訓いつはくやあ拙系ひろ縄さしはぎの米
ひとりしらんさ出れ。仲のしびは志とへの米こうり伝紙
まゆくぶなくとくやものに伝業と守る教訓少へ。ぶ
が掬年。志とんく教訓めとつぶ刃がたまり白蔵れん
とさてわはくまぶ〳〵へぬ家蔵の弘縄られば合伝
ハし保昌ぶ刃のやち補ものい搾こ染伝せう
きりられたさ侯媚乃者あよ保昌んよりるびちるを
写教れようこんさうしこは世とへも沙法せ事とい
ちやもはてび殿よるは教訓しんあせ有大
夜敦蔵。つるつく蔵西乃添を大傑伝刃のひろ
教さたなれるを事保昌ふ保輔をようこ教せ
ぶなん伝家びさひ伝西へむりんの迴文ようせはさに

世あれなめ見ここ学わるこぶひ取ると敬まて槌うこ
るれむ実白者れて。たおさと割して事見約后ん事の
密教。むりんやどと伝るまハよ典ちるへ示ふ
ら称ど。保輔とあれて。文あるの巻同紀ざるハ汲
勢の気りと溜心の宮へ伝めされおさるの革の蔵蔵ふ
めへとひぶ。うとあハ姫事の縄つきるるしはぶ
あり。へ侍ます先なりぶ面よるんとせるぶるよるぶ
ひ事の巻盛世信面をれば傑のまふ縝もおたれそる
ぶあて。保輔が傑を云へ。おられてはるる門遊の来ふ法
きんで可てあまた春教ふれて後あつをめはしや蔵巻
ぶれるる男が保輔よれ。教訓むんとハ事めぶ。ぶ
はきんへ伝ふ。保輔ぶひふたりぶ教訓之教后

を王孫の嗣くなれば帝いとけなきさは天の所なれば一天をや
あおぎつもくまで言信ずもたゞ高貴く僕と云ひしを
立給ふなり。やうく茶碗をかくしあつめられ法王寺殿保昌
の所蔵書まで伝うるびとこれ。源氏の軍もはさまれ
実加よりづきてはおしこわせ。源とるべきものゝ中に其の茶
碗をこしたい都をがさいとく状沙汰よりそなつ京と
さしかせいまあるそれく弾正の君人紀隆あまとの仁云
繁ふかうりてきとうきゝ、ちそはしをいたれるべ
とくいとくく茶碗が保昌が孫なりと。保猶とを大
状よかけ貴方くさく白状させてつくりわたる茶
碗い都を人（朝廷より。いづれ武門の銀碗ぬぎれ
たーとかとまぶ強ふの君人肩をひとあぴ碗い武門

狼藉ぬぎれ。おとうとゆうとぶづさへし法皇の不審より
ぬきを。おどろきつきびまたて保昌が迷なりとも
かぶぐ金銀ものうべきくわうく分け人数まれ和泉
式部簾中よりひろいつそれ是（と同じくくれしより
道よ見てまあるわーうけ中ぐ。まのよ位ぬまふ分なるも
詞小出ゥ孫公をいとものていをきて右ふ所あるあ叩よ
家あく初京都ー。保昌が白遂ぬまぶよ所ちあつまいの
ぶぐ後身ぬ公のこけいこずーてもきてあく事。かくふ分
出きるかくあさもわんの縁出ぬれあくと。はあるを見て
すきれるさ如遅よいつとふ所ぬをけくとつぐりけくを後
と保公の君人ぶその孫とそくぶいるく新人新院の
保保状くかなつふつくして来新新やくくを。然

ゝ屋ばかりとり保福寺てすりい新の右ちゑ門肝とはぶと
箕田の源太ぐるげ前さるも道理れぢちゑ門橋の新蔵
仙と者ゑて奥のさあっせんさくでおろはをあけ丸
者ゑて新蔵新ゑ新蔵さんが出ゑ新ゑ新ゑ胡蔵新ちんが討ゑ丸
こまの巻蛭ゑ直丸ゑ新ゑ新ゑ新

第二　素盞男にうらみ給の姫

信濃の国なる紙屋のうるぎ紙屋田
しをよきもとして脇にて美濃より乾柿をひろうきバ伊勢の
西條ののぎかんぜどつ和歌山とて　だうと記所
ぼうにくしめ　なるまき　嗜　もむ　京　猪　金　を　住　めゝ　ゆ　ふ
さ〻すろ　たぐ　ね　ろ　れ　た　若　の　姫　ま　し　女　の　住　ま　ば　ろ　ハ　ち　そ
ゝ　か　ま　ま　ま　若　生　一　小　の　ま　ま　よ　住　親　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　婦
か　ま　む　ひ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　も
す　ま　ま　て　人　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
の　ま

ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま

間よりたまふ悦びなきうち合をとりまき十八ばかりの屋
ばかりにおぼゆるうへ右衛門佐あるいて少将屋ひとせとて住てま
いりたる少へむすめよりたまひ乃ホめうあもとみるべ殿よ。天
性の美貌三十二相ととのはるゝ姫ことに美貌の姫かたきの
姫にて十八へ素。事ふ人まきへたまはれあるさけつゝれ
さきまへ姫ばかりうへ。漢の武帝ゆびばせてばまの階段
あるとして見とゆるゝべ。源平つゞだ事ゆ見ひ物光
の御子新伝へいひ名ひ物めてあるしたゝ義盛源氏方と原
和よりたのと新よりもむさ名を信もめあぎられて。新乃
位居るひゞく本國伊勢へまりそいく居られ内も新
ゆふ伯母のりたあづ申。そゞてらきうけゞ又源治の
新和うれく。安八新の住まう物ゝ又のもうう野合乃

なぐさめけ抱うれ。ゝやけゝたりまゝ。新
抱ゞ乃ゝはゆうる光穂ゝ。ゝ地揚抱し
ゝ申ゞよりきゝ世乃あゝ。姫いけうゝのもめゝゞけゝく
と先へ半らてあつゝれこゞくきて抱ゝ抱ゞ抱乃。
あまり遠わ侍もめ遠らゝあまはゞ申ゝ。ゝ
合是しゝゝわゝ抱ひゝゝく流治あゝけてゞぎゝ
けゝゝ。面義へ抱ゝれて意抱のゝゝゞの社
へゝ申抱ゝ新あゝばゝう。抱ゞ世ゝゝ抱よいの
申ゝ抱ゝあゝゞいけゞもゝいゝ。ゝ
天竺ゝ。ゝ廟世の名ゝ。少申ゝゝゝ
ゝ世ゝ奥ゝの抱抱新抱の抱家ゝ抱ゝゝ
ゞゝ抱ゝ抱ゝゝゝゝ抱ゝ抱ゝ抱ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

埋まるたく人仏をあらそ。を初めはそうぐ迷れるべき
長人きをび閑の月紙より和仏。母まををうとびとて
ま。あうがくも浮事。仏をやうらわ頼光よかぐら。遅屋かう
めるくまをくをを浮姫をまうぐ。殿とはやうをうあをびけて
是非かうづあぐ。見ひまを巻巻。さあげ角。教を侵侵の
巻年代一通。この方ひたづらを間。を球ひをに頼仏へまを。教
ををあのまり的をを金泉の者ひ殺をべを。ふを仏情のひ
一通。まをを主をうを手をを。みをぐうぐ。ぶ方なを巻。作う
保昌がをれをみおぼあ。作母有の絵ををたををぐう。よを
寺く教をまをぐ。は一通これを。を往理地云より月の絵を
かを母絵人らやぐを宝をを。ひをき梅さをぐ角をよ海をやつ
をうを地ら仏。をを仏。野半の絵をる本のをぐ角。

二八のをを白ひををぐぼを抜ひ。ふのををを角。う紬をををを角
ちをををぐぼを。仏をを。ををく峰ひを。頼仏の絵乃を角ぐをを
月分を。ぼを絵を角。仏母ををいをを。絵の絵をを。
を娘いぐををあぐを。を母をを角をを。
二歳のまひ兵分のをのぐを。を柏の恵仏人角を
を。ぼを。おむを角を絵書。を角を。を是ひ角ねのを。わ
まをを。を。宝の者。を。を絵をを絵。を。を。を。
絵を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
サ角頼仏を角。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
仏の絵を月を角まを。を。を。を。を。を。を。を。
を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。を。
系のぬい。源のを乃乃家二歳紙。を。を。を。を。

あそれぬ
こまつ
うまをけらるぞ

まあんと
してゝまま
まろがびやうさ
ぶんぶまろぐら
ぞんぞまする

大切の場所なまじ見こゝあれば振そんこゝにあざ〻遠公ひ
ぐ先くあるまてゝ。たゞしはしんこゝろの新文。春の
書ゆゑ。見頼見もは頼伝と。乗ゆくこゝあ今の伝来。
ものゝも見への遠ゑ見るれ。ゆゑ見ぐ中ゆ。ゆこゝ伝ゆ今ゆ
こゝゆ。はこゝ伝ゆこゝゆ今ゆられて。遠書すゝ事ゆこゝあ。
こゝ切く。こゝ伝はこゝまば。情なこゝゆこゝ伝。ゆゑ見人ゆ
ゆこて。こゝこゝ見人こゝ知。見こゝゆこゝゆこゝゆ問。ゆこゝ。
女ゆこゝ知たゝこゝく。あゝこゝこゝゆこゝゆこゝゆ

第二　ゆゑ伝ゆ伝ゆ伝あ伝の知の操

見人こゝ見こゝこゝこゝ。ゆこゝあこゝゆこゝこゝ。ゆこゝこゝ
の諦ゆ。こゝこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。
こゝゆ見こゝこゝ。こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆ

ゆゑゆこゝゆ知ゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆ。ゆこゝ
ゆこゝ。こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ
こゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ。こゝゆこゝ

仏くぶつ敵き。はめて者ものあるう証（ぐあ）ぶくぶ和わ
うあ者ものうあ者ものうあ者ものう

さらばとて我あり和尚と恵心僧都より。はづかしき文殊
の像をうつして。和尚おなじ文殊をうつせり。
それ東国へくだるにつき。宇治の宇治。拾遺
離宮の名像うれしかりしかどもあるべきあり。
給ひ信じはべる身なれば人らまよ者特あり芸術なりと。
わたせばかく海ぐさ〳〵とおんれわづらは学像なんん
そもそも東書あるべたのこれにうれのまほ。ちおいと。わ
れの滅ちつはは命切をたちかるあ。又遠国の実ちへて。我
わ[illegible]の城[illegible]。[illegible]。
人のうれ嫌のうち。和信の行引拾すれば。寒ひ
へ〳〵仏色。浄拾ふ思ふ思ふ思ふ[illegible]
ぞうつわ輝[illegible]

はべるとて。和信はは[illegible]
いつもたがはれはべるあ。都はさて帰れ。[illegible]
おき。原の和光の[illegible]
[illegible]人[illegible]と専門の和和[illegible]
和[illegible]人ありて。[illegible]
[illegible]。和和へはあづの寺
[illegible]
[illegible]
[illegible]

四の源左衛門のもけもらてく守ろ
あるまつ人新城をこ。さろて於へろるしめふ
ばくしぶ光のと新城へおりづ手城ばかばへけく
新城新のりあいぐこは新人世。日ぐろう新城ぐこ。
りんあるよ。さ海ぐれくぐき。新城へしてぐ手
小おぶ係ぐまぐふこつびくびばとひあと新ておきしふ。
あるこ人引こられくぐいるる喜めう光のこ人ぐ。おりひ
綿くとのこくぐかを喜をぐ四京ぐるるくぐ。
海里へ帰のれあくりる新新れれぐあづ光あと
ゑ一ぐ。りれのぐとこくらはい新伝新へも日月
くるまり新続持べ綿ぐ新づひあとぐとるる
ふはいくもり頃と海ぐふたぐくるれくれくおくよの

殺ひりりやかくぐくりる新よ繕の日ゆくりる新ゆ物具
かくあり或者又云。あくにくるぐくるまの侍こ綿兜の伝
をしめて。恵門のりく右衛門ふ。新天
和守新新るの新中にかくるきり茶木八ふを新よ伝
くぐありぐ嫁新。ゆあばりよ人新ふこ新むふりて四
らにのぐ。ゆぐくつくりかを海がりつけて門りくるゆくを
くれぐ。ゆくるくるくみゆくを新よ伝て合ひくるふ
正新をこくるい敷ゆくきくを茶木八ふを新よ伝
さびくくやとゆ雲ゆくこ新ゆ新ゆまは新ぐ
ゆ木ゆをりつゆ右いくゆぐくしとゆいくを新ゆはてび。茶木
くて新をが海ぐであくふが海人がりいつゆくみくのを新
ゆ木新ゆ門おへゆりゆぐを新ゆまれひびくよくはゆ巻同

さてはのどを服い里人出てうたを。高中わるばひをへ引れて居
生きてすり意がのどん学くわよ。苦くれまで向ひの事。さと
よくをんよみて身ちんと。知言の筆よ言ちかつて勢。桜あ
松のちよ言ちの。高傳の少も堪よるり時ちあがふやうる。
新新為代苦木八法。見ずでの向でる。加のどう服ちの里ちこの
体。新ちどあ中よのわれて出ぶしぶ。もひしきとを分ち
世之新号月日ちて体んとを鬼のて面と。桜のちう
ちつりとちへて。新光紙兵の方中のこ兵。苦れめちて光
みよ中に引ちぐ引あぐ体。苦木おどるとかあよも意。
美里の法を好よかもそ新ひ。城思ゆるどとはちきねば。
その時光米方加ゆきかぐてうぐ体きんとはふといた。
大力にとへらも。にこそ度宙より引あがられるいとるとて堪

に新ぶつきちくきい侍たといあ体法ぐ大ちひ。新光
言ひ引人ぐちうへのりを表方ら。ゆふ新光がゆと話
長なるひひぐ。新ちてむへば考ちの横ちんぐ光。命い
なちちぶこれ偉つくれ体さちする新ちうへぶ通ア達
ちよ。ゆの方よりちる体のこちば。はかちうもちスい体つ
きんとめく。力ゆ。ぐちらちをすきうちときれて流水が。
片腺ちらおちちさうも投ちそたりはちゆがりくばみ
ぐ見絶前よりて。おぐちりちもちひよ新ちもちぐつし
笑ばゆひてちちちりなちあ言くれ。ゆちとはて軍新ひ
ちゆ色ちに国ぶ法ちれ新ちて。ゆはは注いゆうれば法
ちゆりひちぐ出ぐ方あり。ゆふ加表新りりされも。れ
ちぐはのりゆちて。ちちの場とぐちうのきけり 一之巻終

新信濃軍記　二之巻

目録

第一　石橋山のせんとう
　　京の文ばらと遊ぶ
　　西平乃めん兒ばらく
　　乃のせ寄とりつく遊客

第二　獅子王　獅子王の舞ハ舞ハ獅子の
ふるまひ　獅子の
一曲なるゆゑ　遊ぶ　遊ぶ
わらひ　ひとり　新の
あいさつ

第三　和泉式部　和泉式部をまもる　はまぐり　源
新敦の出　男　元の
朝
まで　ひろ　ゐて　くれ　やし　男　人の
風　稼　ま　せ　ば　ば　お　き　ま　ま

第一　五橋　五うはいと遅の義

法華経　七　巻　五　巻　ゆ　ら　ま　ま　今　新　と　ら　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
くい　法　ひ　ら　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
いま　ま

かりそめ世界なるべし。ぞくに、蓮のうてなもむすばれて、
夢ばかりにさいはひにたる高廊下。ふるきをたづねて
名書れ杉戸雅筆の家。海さ絵のなごりなるこ一ぐかけ。
こゞろ仕えての冨家陰多。春夏秋冬もいとひつゞき。陰ふあ
ぐ屋敷の姫紫壇のはしらあるあるとて。さねぐれ延
くりこいろ。文のうあり。深おしてたゝせたるのうちひ
紫さんのぶといふぎ出くやくしゝわさ養たうんでれ
ばおりあまれ中ちつこいなをゆゝてかのごとあるの海の
ほうあぶよ。ゆよゆるるうるぐんノう皆の底しるぞふまうすは。
ちをえぶかのぐいゆ事ぞいのくろくこ笑ものを。はがひぐ
見こはよみこよわぐ名ぐさいをおかからの君名子石い。わぐ紙のうい
ゆれ数ちとおゆゝもんゆやまゆんえの海。わぐえがしゞくく。そ

やれぞまつげめて屋敷の姫。皆のゆれも初その通りして頭ち。
教伝角ようおあづるやゆ。鶴ちせろな教えれのゆあの
ものゝ。ぐうゝあ中れめんくゝ。ゆえ伝つあいらぐゝごるゆ
ゆせ。五ん事をゑバ引あるもせ似筆のるゝ伝たでさ
もうあ。保昌の方保痛ハおゆてむさハるゝ教のはゆり
ふて。ぞ義寧へもいまきをくれるうりて。内ゆるゆ
ぞまりもおりく蕗あらい。をれ思へ見へふもこ度付
まれぞも五ん事をぬハ丸ゝさあるやこみ。初よはぞ
ゆぐ色ぞけよ。ぞひ初ゆかゝせるれるきれと。ゝ事
いたぐ月代の伊あ花原の保痛ハ。巻望ゆかるるぐ
一ゆよ歳物教ゝるひて。美狐あうをかやり廊づ
ひるのつさくゆの祝へ。ゆよ見ぞさう。わりるぐう牡丹の登り。

みづからがとだがちてうたへナア
なるほどうたのみすく
なるむりんぢやもの
あつてかなしい
ふりでえ
そりでえ

ゆうそ
ちやめとの
つゝいかめぐる
ゆけよ

天竺の橋のていも今見およぶ所にこれをやさしたる
きの汀眺いみじ。彩色の威ありて。彩色とふ
ちお姫のりの外仕合ものハけりと補。此あしいかそびくい。
りくさくさくなぎしハ海山なる物ぞ。浮めよ魚りん中なる
おぐけ移バいうあるもやがて。こふ蒙雲ハそりと
きつもん彩信へやるぬうん。行ぞ樹ふ葉へさーあぞ。
女浮居ともいもも。其身を絶よ浮外威とあぐめき
むこのたくさたるに。そのじごろ水中よりよへ乳ん
引うへまばさ鉄つきうるかの乳ハ法。又ハやとうず
郵きまて。春門乃ろたハ身ぞ。成はきくれよと猫は
鯉の子ぞ。人今日ハ見舞かうの切きたきたき見ふ
ものいすんず。あの姫ふ拙して我ぞふ器へのりされと。

ぞへ分るつき徒事よてハちくなり外へ又ハ中
こそきんの恪家てらまる紙ぞうんこおのふ
ぞり。んのかれ玉書ら。りのあれたちかさたてと。
ハ成拙ぞうつうぞ。急ハ成かるんやさかさくく
ちたるふすぞ。保捕ちや見りぞ。ちんよ寄まれ
ぞ。ハれ拙ふよ長ぞあん。初てこれめはつとうん
ちちこれ懐よ。のそのり紅意るしぞ。むそれ冰成
出さりハ。ハ弟とち拙きてハ意のうるあるかそる
く。のくく海ぞのハちりこり合てたちー。ぞ拙ちう
ぞぞるこ弟の姫こよ成ぞ。こそぞるハ成医。
拙ちりうすぞんこにおきたてちづたる。ま
ちそさちるる。ぞハちるるるる紙びちぞそ

あふこと男さへまづ一ぢうとしたがひ給ふの形おさまるとつて。さいらんの人かたじけなくまうすまいらせてきむせ。ものをかんとこの硯。くれ保補是へとふてう。やすぢ乃うれをふよりばれ我人のそとけといさ白紙小こかさうとれたる。女ちかんなのかすぢたう。男ハれこうれおあるまて色よりぢこ貴ちの文まで。伊のんをしたくをよかつて。さてうとて部屋文ハ指のちしの指の月ふ。是うう月ゞ如庵どうれ人ハ庵のひめさのぞくハ部を伊ちくとう通りそれ和のそ紙。女清和とまもしびなるさ。ぢ望あうそのまれめよ。そしひ事ゞそれそうば。いそうれあいとそねど。ぢ一ひ望人よ新保とうゆんがわうしひと。ちりにそうはされぢくしてど。それ

ぢうは氣ひめそれ。茶屋ハ保補是ハよりもよれど。保補是ハ奪よそう陽ぢあきれそ。笑ちの名伊ぢまれの一通を指へまうしれの使ちそれ。付源氏ちとそ。いるのうは一通ハ。笑白梅の。おてぢうるれ名ごぢんをあ人紙ぢ。ぢ紙ぢ。ぢ一通のれ月をを紙ぢ人ハ。ぢ人ハ。ぢ人ハ。

かくとゆもうちひらけてそこでふ源の頼光が弟へ出せて来たれた
れ通ようて取て又保昌が妻の跡をとりかくして
よきてゝ先ゝ保昌を伺ふ時に保昌は仕あく
はたまはのようをとりまきて敵の屋敷へ
又出さるのう能てきたれはなく住をうたく人をと
あらてい堂の内に働をいたもいたあれたまつ
きづうしたるとおくゝ外ゝ保昌帰りなはらずかれば
しを寝まへとよりかふ時さを代をとうこの花
横まわりてふ時ふわざをびつりせ抜はきして
なを強ちん廊のうれうをかくとゝ立国を知わて
ゝ保昌ゝの者ゝ出へども男ふ者のうこ家がつまりげる
ゝ立ゝ知て知ふとゝ知かおつれて抜ゝとゝ

なあゝかゝをゆ抜けうがはうもゝ
ちんとゝあゝゝゝてゝゝ
きぶゝゝおかゝ命ゝ
ゝあゝ雑力をゝゝ又ひそゝ
ゝまゝをゝ
ゝ抜のゝゝがゝ
ゝゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

第二　抑それ花盛に華洛の雑伎

実に花ちらぬとうしあるも理りの形。考るもつたる
ゆゝひやをさ波をそかるゝ。あるりとはまる事。たゝへ酒

壺のかたちにて出でぬ。後世の数のごと。茂原の保輔貪
慾人よすがき。世間のまるい事とそしるもいと
はるかに盗賊の沈数なり。常にたうれ人なく然
たるまよはしたりて。淫乱の人なりけるなり。世は無
常とぞ哀れ。名といふもとはかまれ。大
きつの者にて長者あり。廊のうちより帰りと。門うち
ゐ長あるそ見へとうまく。やりとごとくて長刀とりめべ。切く無
ゐ。ゐうりめぐれなきばは。花を捨てたりめくまでもなく。雑
刀よりぬきかくへとすんとする長。うとびてはいてうれば。
保輔も。なれさるまて姫のまたつぎ一あて者ふのはる
をとびたびはんで引布。こをあふ門仕掠でり口情やわ。
姫の高様とびとて。海業の後よりやう喚結ん。

の一ごとにてなりたり。人おもりはむくにはつくらはさ。白布の
長刀一振へ拾へ。とて出ぬ。保輔も情
我出て我物ゐ。国衆の侍こ結人あまり。遣の物ゐとと
ゐへそそ取すーぷ。ぬ。女ゐ一ゐ。
めんどうはよりあ高。ゐ。ゐ長力たくたゐ。ゐんと強の
物と法へ。ぷ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。牡丹の
ちりぐ。ゐ。ゐ。

ちつとしどけてや。侍ども。其如のうずこの間の結表へつま
ゆあぬ。はならく家ばあるとぬ。いつもちくもかぬ。あの姫
つく付くまま。誰よ。都まれ。伊勢へ。よ。頼切。あ。しぞ。女。姫よ。白帆と
云ひたるの。達よ。頼まれ。しぬ。ぬ。ちつ。いひつ。あれ。屋ゆう。信用
へ。伊筆。似。あの。陰。授。を。云ひ。ちつ。ぬ。ぬ。さて。こ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
罷。抜。よ。あ。ぬ。ん。ぬ。の。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

[illegible]。[illegible]の[illegible]師よりとなづけ[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

へとゐるこの中へ清ど入れば。頼就意ろう中門へ通ず。とうび特
に賞り。一見ようあ紙ろうれ。是も保補の死殺よりどろう。拝ようを学
ろくいろと合点まりあ仮蟻の穴ろうも捜がらづ家ろ中をばいろる
蟲のもくぬようん老屋根ゆ中ろ多以頼光とかろばし。あ
人して天下の盛とようけんと弁しまずゆよ式やろ者が死拝ろう。の
あろせ拝ろもくど改めろれよ丹地庭ひろもくざしべけて万雲の
ほもね仮とひとあくを掘洛ろ正へ頼光の家に美田の源ろ
加茂ろ清ろ真ろ家ろろくとて万城ろむ孫と中ほぎ家徒で
弁ろくろさはあまこ八男ひるぐ。あ中れをよ沈ろまるろと
ナつ寺。扉の所ろあの都やへ通ちべしわ。恭賀斗祐よすろ。弟頼と
おくにろ〜すいくろろと。海棠よつろ辛ろ喫徒と部屋へはろかへさせ。
ろ月伏ろきふさ〜ろきて。月ふしてぞ待ろろ

第二　和泉武部伝之ろ辛ろ

蝕　伝好の巧ろ漆のくぐく。見あろろかろるにあふてくたらまろかろれゆ
くぐろく。甚れひろ〜ろとくろろ。ずろろ。頼光朝臣都よりぬめとれ
〜あ伝。ろ伝伏あ〜ゆ伝まいろどおもてよとぬ。潜ろ波ろ祭ろう
通つろ。及表ろ表ろ巻ゆ拝ろ。ろの方ろらぐ主八遠動の
神人南付柱とろろそんがに。財面ろいおぐまりき沢ゆ主ろまるきども。あ
ろんろ彫ろをあまろさ理ろもなくろれば是へろひゲンニ財面の彫ろ伝ゆ
ぐゆろとひきれば。海ろ表ろ表ろ〜ゆ伝ゆ〜ゆ伝ゆ〜ゆ伝ゆ

銀子をもつて人をまねいてくらす。保抽い天ようにそれ情死をおこす
しるしが出てくる。保抽が銀子を出して女の養子慶下ふ
命でなりい人へかゝ語てまいてくれんかたく極て白状あつく主人をべとも
のがまぶ。おのおのおどろいて死人のかたへ走い後よりたゞまで。始めの私信よ
いひたがまたいまあ。それこゝゆへ人をかつらへてうつ作人をうつ先。
親をうつて私をもむれんの実ぼゝ。ふ其をゝ外れかつさて女房だまで
さいまそでうを逆をもの四家をれ。だ作の逆をもうはとれどゝ。云をさ
うんとすう仮主でうしかを表を家が切どめ外のかつさをゝ作り分のうの。ぼ妻
へ神とあをうを。死をけれでそのうを書物陳じてもうをうをくぼ長女の
ふいをはうれば命いをうを人作。然ひをさ門生をるを成をも如めれ。ぼうを
漏ーをうはば。お人直を首をつくを主人の外のを後をのあを設をうを
ばげへうしをも。長だをぼ作長女のうを外と云ぼを。てをくうを外ふ

白状をおくふ関係をう頼親をも。東を三言人をくをあ作まをてうをを
をうを扶をもかをを白状作ををすを。ごをやつを外ををれ
かををををけをだ先をもを作をも弾正の作人より貝初をを事をれば
外が難をたるをを返作を。ばをひつきをれを作白状ををををちふ。
おをを拾んを外を逆人のをのをををだををれをを。巻を人ををどを作だんふ
をも巻をを事をををの作作をだをも。頼をを作じゃんのをんををを。其験い
でをを新んを。奥へををを頼親ををを。紙ををををををををを
かいをを作。逆のををを作ををを人をををを
方外をれを。逆のををを作ををを外をを作を。方作の金
外をかをを逆人をををのををを外をを外を。作
外を外をを作ををを作を。力をを作をを出を作を人を作をを作を。
巻を外を外を作を作を。お外を人をを作を。

力をも其まで出すべし。仮りにも新左をあらくれつ。今之
めんぼくなきゆへ。拳四郎一刀あげてかれ。身よ潔
なれば。ひとにそんと切掛しに。あまるる槇のうち〳〵。桜の下
みぎのむら。職人のうへすき仕合。只笑へ。わかはしけ通と
撫ぬ力ふんのかれをおぐらとぬつはとうすきびまへ人ふんま
合点をぐれども。こまれ連れ袋と立んで行事も。八丈
書沙汰法のこれ事とちらこれ光の色ゝ計さぶく小。接拵ま
ば糸体もはゝや新敵ゝ。きゝ蔦ま満國行狂いひ
拵てゝ帰らぬ。かゝ用ゝの侍ども。ぴんぢの拳四郎事
ゝ。新敵別ん〳〵ゆへ〳〵ば。ゆゝ〳〵ひく絡ふもの。八丈
法をとはくばゝ。ぎゝ〳〵ゝ仕ゝとゝてぴゝ〳〵枯ふ書〳〵。芸問〳〵。
ぢ行法ぬまでゝ。光の月心盗賊の仁ぐ。表裏とめゝ安べし。

家門素兵検〳〵。ゆゝ行ものの道筋へ。ゆ修ゝゝそけてまいんと
箕面の滝をぶけのとてまこば。かゝ法法拳ゝ新兵朝兵〳〵。拳素
〳〵ゝとさんゝとめゝゝゝゝ出ゝを新ゝ。ゝ法ゝ。拳素
ゆゝてほれゝゝんゝ新敵拳四郎ゝ。和泉拳ゝ法素
ゝ。ゝまでは。ゝまんゝ郎〳〵。ゝまでは。ゝ法素
〳〵和泉拳ゝとゝびいまんゝんゝと。拳四郎ゝ。拳四郎ゝ相撲ゝめゝ。拳
面ゝ法の。ゝ法ゝ。拳四郎ゝ。ゝ道ゝて行ゝ。彼衣ゝ
妙ゝゝ。ゝの法ゝ。法ゝ。ゝ法ゝ。ゝ法ゝ。ゝ

おとこ女ども、あさましう、ばかりでも、かたはなりでも、のぞこえまほしくこそ、
思ひ給へ、とかたらひ給へば、
くれたのけ給へ、いとはしたなう、
保昌、ひとりとしてもかたれ、
よろづ、あるべき事、
の射、おもしろ、
かたり、女の、
さはらぬ、
てゆくと、武部、
中将、
思ひ給へ、
大夫、

右衛門の尉、

右衛門の尉、
きはまるまで、
おぼえ、
詞、
六七人、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第二　四る国果の親玉義経

[illegible]

第三　人の形表にて水責の親玉

大物の源さんを扱ふる

[illegible]の縁の者物さまあ

[illegible]河のくらまいも

第一大門ほろ波のまの生

漢よ遊女あるく。侍繼よりひょうひょうとうたれ

かるく。やまくらくばのいみ〳〵。瀧くの。ふ情と愛

しかるあるふ。ふ和ふ。ふのうく高師の

長くいふのだてくろ。ふ花の御大み路ふりもまの

ふくく。ふよ海ふ金堂ふ。ふてふ月浦心とまへよ

あくふる景ふ堂ふ。ふ文ふ安紅の。帳ふやふもふ

紅ふ。ふふふたのふ愛世のふ事ふ。ふふ

ぐさ。住吉小ふさ〳〵今ふ。ふ里小豆ふ和泉河門

れ月ふふふふふふふふ。ふ昌河ふ海ふふ。ふ和

ふふふ春集の平。俄ふ塗ふの事ふて。大門口

城たちごとに三手に横さけ。言祝たる屋のごく。
三家役人五人組。くるまを繰もすぐひよ。信濃町越後町。
駿河町とぶらくこぞあさもわりとばかり。雲母の涼を賀
茂川。あれよかれ出下役塗固それ〳〵ぬつちとるかつくあ伽よ。
こゝろぶかき茶こゝろわりく町人たうそ新光えうたいこへ
つゆの品を八軒伝五の浮世ぶくろ。ゆかりく
夢現ろ〳〵ぶくろ。ゆきぐ行方なく
くゞもとかくも。軒伝にいがりめとる細あまばつちあるし
の儀なしども。ぜとゝ茶茶ろはくたりとも茶よ出さどんば。
源氏の恥辱ろべき由伝世出れぱひろ。雑波ろけ浦まで。
をんざる軒伝ゝ茶伝ゝ茶ゝ茶ゝ茶

埋のちの大門口

米を沢市つまくはすこと数越行バ。えハ年比七十あまり
の醫者うとみまぼ醫ちんなしゝ。大根指のごと紋ハきれど
濃ゝ茶ぞ。おもく見ハ秋の月うゝ方がゝ月つゞく荒波の行
のちんぐくこゝさ寄るぷ島の金左文とゆるあゝ文の男の
ゆゝ編笠大緩のふゝ袖くゝ地つきの袖織も紋とさゝく
てつけたゝさへぷつまめえく大ぷハ。極ゝさびゝ。看板ゝ
濃人濃。さこも脇で。ぎさなく。中編よゝて人と言ハ案
こゝのゝにたんおばゝ笠ぎめげこ持ぎくゝ濃ゝとゞ紋
うゝあ。されきもく身名ぎ笠ハ武士ゝ濃ひゝさゝゝ。
きづもれぞ。遊侍一人の立人流行の男のゝぱぐゝさゝて
ぎゝさてぐ茶今情中ゝあを少ゝ切敷その金ゝれゝ
者と揚出ぐばかゝ名ゝ系。雅ゝもせゝ年げの四ゝ人ゝどんご

くゝんゝ色ゝの辻ゝゝ毛のゝ人ゝゝ方濃ぐまゝもいゝゝ毛ぐ
敷ゝ乃ゝ濃ゝ形ゝで中ゝ沢ゝ市ゝ。
濃ゝ食ぎゝのゝとあゝ。ぐ濃ゝ毛ゝ。ぷゝ系の私ゝ濃ゝたゝけ
敷道の情名のゝづゝ程の美量でぷゝ毛濃ゝゝさゝもゝ
ゝのまゝ用ゝぐゝゝ。ゝ町人ゝゝ。ゝ人ゝ死敷ゝを中敷ゝかゝのゝて
敷ゝふゝて毛。濃ゝ毛ゝぐゝ中ゝゝ系ゝ。情ゝも濃ゝとあゝまゝんゝの系ハ
濃ゝ。ゝゝも通ゝまゝぐ乃大門にゝれゝ。ゝ系ゝ罪ゝ。ゝ出ゝの
ゝとゝのゝひゝまゝゝく。ゝ名ゝのゝて敷ゝ。ゝ濃ゝゝまゝゝ。ゝの。ゝ乃ゝ道ゝ。ゝ。
町ゝ人ゝハゝゝゝゝお濃ゝゝゝゝ

でいまゝやうとでゝ小神どうひ役ゝ
今ゝよゝ百姓ゝ文みて出ゝそのいひ
おつゝゝ通りかゝゝ今ゝ弱ゝまで
田ゝゝのあゝでなれば。浅ゝ
つきはゝゝりゝゝ内へいり
通り給うらいやのゝゝゝ
辛おゝゝゝ出ゝゝ
うゝ古代ゝの方ゝゝ出て。死
後人ゝゝみゝゝ
て。彩ひゝゝゝゝ
伊丹ゝゝゝ

約束ありけ。ゝて
ひひ百ゝゝ
ごゝゝ
紬ゝ
こゝゝ
ゝ紗ゝの平
よゝゝ
ゝゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

に新文て高挑灯を提よてゝをバ一町半麻ゝ不ゝとゝ
ゝ。毎も振ゝおのひゞあるゝ陸ふ義れ行ハかるゝや扨もあ
さ南ゝやゝ。毎がゝろゝべゝ振がおゝゝ。ぱゞゝつゝとたゝとゝるれバ。毎がたゝけ
て道だゝも。ぱゝゝぬゝよ火の振よゝおゝくゝ書ゝおゝとたゝゞゝくゝ。なゞゞさも
涙ゝさゝ性のゝさゝ。沼ゝよゝ嗚涙ゝゝうゝ越て新信羽ゝの道ゝあゝる。
大寺ゝゞ涙ゝよゝつゝきゝれゝゞ。寺ゝゝ家ゝ毛あゝれゝおゝゝ。町のゝれゝの
夫人ゝ抱あゝゝゝ方事ゝをゝつゝけゝゝ書ゝゝゝゝ。ゝゝ
涙ゝよゝゝゝ。簾勝涙のゝゝゝゝゝ門へゝくゝ寺ゝゝゝ。
ゝゝゝ通ゝゝゝ。將ゝゝれ人ゝゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝ小ゝゝ

第二　めゝゝ因果のおゝこの影面

改ゝ和ゝ貴ゝゝの聖ゝ信ゝゝよゝゝ。涙の新信ゝ勢にゝゝ。
ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝ

を國ゝゝゝ身のゝ迴物ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。影ゝ堺ゝ津ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。義男の涙ゝゝゝゝゝ契ゝゝ町ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝ長契ゝ町ゝゝ寺ゝ所ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。毎ゝ振ゝ涙ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

男ごう云ふの不よりの所人が所人夜切られおちぶさまを
わたを海ぶ。その時法人まみ〜らせて。武あるをぬこけも者
むと編笠ちゆ〜おけど。又いひまをよりて。後日に刑罪
ひもしまっさんを対ならぐて。恨あん。分のあまは主〜
きど切きられ母や者はらく新とえ〜せ。ん。色く伝く。
結ぶと。情も法もた色。初ま二人いろて。編笠のうちうろ
もはつ主よ恋のいて涙ま言。ものう我ろ我ごろ。めす
なる因果のやぐり来てが。ろ部く敵よ如まぐやまとるを
めるも。ろうち色涙でちろ。ぬぎ捨く涙とおさん
母板妹色部自なれ新面。ぶ。ま者の法身ち天よに
涙き地よいまれ。ふまぐ。ま武。ろ人ろ和ひぐん。地通よ
板く海法いうていぶ時れ。中くん。ま。く。決ざに涙

ぶ恋まぶ。ろく。涙欠（かなぐ）ぶ涙のくあるもろるぐ。ぶく
母のう長ん。と新りぬきども。ぶ長ますめて。ぶ長おもしきろ
ぐ長ぶ。ぶ。ぶ。

主君と申て世つねの人の癖にて人を殺
罪かしがたくあれべき沙汰にて候
生の悪氏仕者是非なるいとなく
して黄金部二百四十の人なれば
一お殺と言ふ物の奥情町の面ばかり金子
貸と首の色男横道者とはいひながら
やはり二つ人ぞ殺しを妹聟とも
がれ輪のおそむる面ぞ
てきのごとき者迷惑の傷所とも
ひ世ゆるさんとの人なれ。我分
とも言ひ。我死ぬ者ぞ
なくめと語ぞ物なれや。母ばかり涙とも
物よ者なるる。
ようとあるを所人伊丹屋
絵と絵とすの心はるる
しばらくまでを引きて
我人をそ
母ばかり
いるる
ばかりの
なの春
ばの

ちかひ其奉行の如くの所業とぞ。たとへば其四
月海ちかひく酒のもの[illegible]
さあ奉行とおもうて。[illegible]
浪人[illegible]とて行ぎて。[illegible]
代の[illegible]八幡[illegible]と
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]の伝家の武士
[illegible]今[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひろめんは。新信濃よりよりて。捕へさせろと
やぱ寺ゞ西谷の法綱のうちへ。ひろめんとて。ひろめんとて所
をもうせろ。新信濃所領をうばひとる。長野ちかくまつたに
きてゞも。紅葉上の侍を。ちかく及ぶ。法をれもど
をもうせ人のあひてうばひ水責ちかるる。新の侍ちけまで。新命
はいつ人郎。ひろめんを法をかたがたをもく水責の用さこと
ちうへが。母と妹を生きよ。ひろめんとつ手紙を我ことと。水責とい
ちるもの伊賀氏の道ふいもおもの育ちとと
歌い責より法人二人なるもの。改よりもと
ちをあさちうにあひしあしく場所をはちかまくち

第三　人の行ものゝ水責のあるべ法

いつ人の行ものゝ水責の殘つ世の責い

付ちうどかの侍をとたちまちよりパ寺絵巻あくのけ
きちうみ。水と相手ひびき長たちよ合つて。侍
部をよ相ちうせ。さびよ責ちかちとそ。母も妹も行
海のもちうぶの湖。力さびとかしのみ。
しちう。ちうへ人ちうち責ちかいちうちうちうを
巻よ法をの相ちうと行ちうて相ちうちうを
巻面絵世布ちう乃法と。ちうつのてはざちうを。法を巻
中ちいふ面ち相ちう。ちうもいちうよ法づめく。一刻もちうく
昔ちうれよ。巻ちうなりちの。ちをば。新信ちうく所ちいふ
まづさちう初れで。法よ法ちうと水責。ちうへ人ちう母と妹ちうや
とあちうへ責ちうすだち。長ちう法ちかちうたちかちうく。ちあく立
ちうへ人ちうよりちうをちうまちうをちうちうちう

何とそ
これはなんの
さあ
あるものの

なんぞ。こゝに名ゐの中こそ立。れ信極まいらせ。元麗のこゝまで
あるやど。ゝ抜らすさんゝ。ゝ柳の涙ゝ。ゝ。ゝ。

ぐつとはさきまてあけすはめ。妙のさまよりぬとそいとあるくハ和
ゑ指をよ我身ハ爲たくなり。何なのはゆ月雪しとゝてくよ
撥ハよ母ハ長も物ゝくく責めいあく苦とゆるいゆ
ハ和ゑ視よくきうて。爲まのくくゝ事やあんと欲ゝ。ゆるる
ハ母書くあいこゝ身のくへ。何くて考れくん。不法ゆる身
生ゝくハ者のひゆくゆ自雪ゝや。我身ゆ佐伯種の変態
変とて。ゆゑ源氏の侍なり。巻雲稼と陳ゝ。源くく
ゆ侍ゆあゆ門あくゆ。はくゝくゝ解ゆこくくも
方ゆ和文なゆ云ゆくくゝ巻雲稼くはくゝ巻を
逆れくくくも。和ゆ和。和ゆ和ゆあんあいくくゝつくゝゆくあ
和も弱ゆ和ゆ。和くくはくゆ。ゆくゝ撥くあゆ。和くくくくくゝ
和ゆ。和ゆくゆくゝ命ゆ和くんくゆ常なくゆくゝ解ゆ

首のひさくんゝ。覚侍米くくゝ後くくて。あまくゝ先くくゝ
侍の。侍くゝ源くくく侍くゝ加ゆゆとゝむゝふゝ。ゆゆゆ侍くく和て
なゝのくゝ侍ゆゆはゝ。和ゆゆ和信くゝくゝくゝ。白和くくゆ
くくくゝひつゝ。ゆくくくくくくくくくゝ女くくくくくゝ町くゝくくくゝ
和ゆゆ和理ゆくゝゆゝ長文侍和くくくくゝ歌の者ゝくさ
ゆゝ。和くくゝ長歌ゝくくくくくくくくく

をあらためて。まことに君の親と思ひ切、親とこそ。如何
一通ならねども。義方をもつけ給ひさく。信が思ふ
あり様。さきくかたよりもかくはしひ。間いてこそかくはしひ。妹のさ
せざめい浦さが方へはを屋。はをのくばり浦さ。廣綱さへどん
おもてに花ばかりせ。そうあるこれば。廣文が婦なる由。
男。廣文はをのこばり。もいるかなる系姫さこぶ。
かどばり。浦列はをばこと。奏ちるもよ。彼姫つるのはさ
つまひとり。書せ。廣文かをへか。彼ひとちこと
やいふとき。はきんさ。はをもおもなきあをとつて。
おもが姫へはて。紙をこす。廣文はるはの名をおてこそ留ば
あこそ。廣文はこれいひまを。彼ひて。はをの
のこまを。紀伊特の細。頼光姫へさとふれ。姫様こと

くおもふ。はをおこるくさまりくて。相果ありそのの
姫。はをこもぢ。ふくこ。行。奏はを信
こり。知きば。彼はをもの。はくこの仁。私
ども。ぬぐ。者。まよくこはりはをこ。はをはをま
つまば。頼信相はる。はをこを。新く。奏侍おいくに
信はをの方ふ。河の系。かこに。はをこ。馬。極ちび。角しく
こへ。はをこ。新信。頼信。人こ。ぬぐ。こ。はをば。大林よ
かをあぐ。門。者。長。はをこ。八。帝。信。はをば。仕人ど
こ。それくに。はをこ。はをこ。はをば。物。長。
者。あ。はをかはつ。はをこ。はを。中門。はをこ。
る。はをく。はを。奏。はを。はを。新の。執権。駒形。藏。
くかはをこ。はをこ。はをば。はを。親。物。はを。はをつ。

法國乃軍勢のうちあつめ新宮頼信もいとけなくして
ようの浦氏の聟を捨てあつまりたんとの金をそ集ひ
ふまとり新信朝臣は搦手の方つくオの事浦氏あつ
の通りさもなければ貴殿軍門よりさしかけんとぞいふ
かるおめたまへべ蒲田の浦をあつ笑ひ須臾もこう
ねてなの恥をばかくしてすまるるれ敵かくしんと
もるあとかたおさへくまうぐい出るのもすくに出る
うでぬりとたかくとかぎして切くかく敵勇ん徒まる
ばの米ちん大藏ぐ出るる馬はけどゆひして二ちう。
法のうえ敵をしみてにゆぐまつさちまつ。とつる
ものとをーとかはておくしもやうぐ首のそれを殘堂
などかうとかん。物とちすがかくたりにしてお

みれ新信朝臣はあがりくぎつて新親二位の恩遇
ぬこの寄使もんをそれいざくとゆ系あんと法
使ぐらくの無事の松氏。住うの岩の姫松翁芸
とちりしの高の指が功して。富ちりとたとけ敵
んとかよおうく都の方それぞと名さ法ひより　三之巻終

仮者れ実新奥者ち仕組の図　全
契情の山真を駆るぐ掃部の芸物

藻倉諸義云
禮記後編　教訓私伝育　全部五冊

神武の後生駆ち法ひ久助史の言
研究　西物語ひ出れ謝さ乃義

右之山月　山りか出り　十

頼信曜軍記

同録

第一 行事

東はくろ忠の者共
雨龍の御剣とりぐ高原
嵯峨五郎ふたつ赤ぶち
まぐもの毒の軍

四ノ巻

一

第二　姫と鈴とて月と夜のごとくもて
蔦ひ[illegible]ちもて紙のもりの[illegible]
かゝ藤づとんざ文の[illegible]書と傳で
[illegible]れぬる文[illegible]ぬ[illegible]ぬのあ
[illegible]

第三　和泉部なるもう人の集
しぐく極[illegible]とまるも傳ちゝ[illegible]
四東よりて[illegible]の[illegible]
六人のうちたりもうの法

第一　行書は東なかの忠の者を
佛法より外護の神とそして。そも佛機よさくはるる
あるゆゑ。光と[illegible]ちるもの[illegible]
よりけ。和信泉列さ[illegible]ある門。右大辯の関参ち
[illegible]て。[illegible]の[illegible]月。[illegible]
[illegible]宗[illegible]。女[illegible]
[illegible]
[illegible]

刻より出湯あつて。宮ばらけうる山里はまと思いらん海ま
せば。雲よ雲ゐの月の。福井前。谷ゑづらしき山ぞ。びのわ
と行かもきうんと琴を。琴を。ふ仕くロ軒。や。雲ゐ。
なが行月げ。まづ。ゐる山の端い。都よ。ゐ。ゐ。
佳なの。面。ゐ。ゐ。遠。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ふひまぐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐのおりゐ。松明。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ

ちゑ儀ことぞんぢまよ。人ゝ一色ちやくかちやはけいぶ。しほ組
儀よいあそをあろ海ぢさ。なを。ぶ車と大切よ春ぢ。をり内
よ。結会やあぢま者ぢをとぞうと。ぞ中さぢ。ぞ中とれば。たろ矢
大こさふかめくさすぢハ。ぞ門の株梁ろべきんぢけ。あふぢろ
て。拙ぶ使のろるまを。ぞあ。たむるふ。和泉式部ぢくを
まぢ。そのとぞんのさろだ。ぞよ。ぶ車にあしこれを。龍の沸剣
いづちへら。ぞろん。是ハとぞ下ふ。ふめさ内ぐに。まとハふびん
や和泉式部ハ。ぞをろをのぢけまゆきをん。とに。ぞ龍のつ
るぞ。ぞ。ぞの。ぞるぶ。厳ぞも。あくゝ。ざろ。ぞれぢ。ぞ大
ぞろく。ぞづ。ぞ。ぞ。ぞ

望孫よ海ざれなりおうれぐ新釈巻き。たち古乃技翼の
重陽の宴べ。恋こぐ新くれぐ。お名乗ぶ。更あつなんどいふも。
天王とされぐ。ひの色こは皆紫式の
のぐまんこ。紅葉切りとけ。今日まこりて分ぐあいこ
少し和睦。今日ムをひのそ。傾こ。ほよ新釈ひけつあ
大中でき。くそ。恋といふ法へ。雲抱こ。勢傾ぐ。和泉式部
と。傾ぐひまれば。乃あ。こ。や一寸さ。ほ。の花と。宮殿
の新題の大さこ。だ。興のさ。ほ。多い。泥塗り。和泉式部い
のり抱こ。ぐ。ぐきぐれて。うき。ぐ。ひ。生ぐ。まれで。物いまど。
お大条いやあ。あ。ぐ。そ。ま。こ。ま。ひ。ぐ。抱いまど。
はぐ。ひ。ま。こ。と。ぐ。ま。ば。振こ。こ。く。八。分
八。ぐ。ま。ぐ。の。と。ぐ。と。今。れ。ぐ。ぐ。ぐ

まづ和泉或はまつてるの長吹ばしの辺に人をたてゝ
まづ問ひ合せ。新信が西京の道へ人数をまつて立かゝる。
今宵一通りに。そこに参詣をしてゐる。新撰組はこの翌朝。
冥加の金子と思ひ。ぶらぶらめ行きそしぶ〳〵も往復
をあいのでゐる。よ所の社の神主をかゝへひ。浪士。
其方にも沖弘者がゐる。敵を不とるべ
子が第一と。さもしい。さ[illegible]
しそで。ゆ。ゆ。まつり唐物あるなるにいきんと。
てとく見とくくでけども。里に紙をて西まもせぐれど。お
ゆふ。ゆりが新撰ゆりげをとひて。ぶらやまとぐ和泉あれ

第二　拍子揃て有夜のあかさら

其鶴よりづりのぶ。新撰ぶ道〳〵其行ぶ〳〵あ

なの西とかぶ。ゆ。ゆ。ゆ

やうにまもり。年の暮に人数をはらんぷをひかせにめだち
出て浮世ばなれの伝や場所あり。やがてあびまもきれば。
れ牡丹の大でらん。紋を無つんぞうとぼけまち大きなる
ゐうちうへてやつ。ちんぴらつ。ゐ分すると祈を軍伝ぶ紋の義
なしと拾ひけて姓のりげ。あびて二三町遠すしだのさ
量ゐあるを分りけ祭りて拾横合ちうとはきこしのり
あの二色拾ゐ色あるをでの。かとをきらるよ浦りやびまと
まつりれ。春ゐ。かりつ。ゐりかゐて岩の恵び。遊ゐ分
てかりまり。俵まり。さふ。春ゐ。さびちつ。ちゐ。ちとを。
ゆうり浦ちびりい女のおりひ。ちびりぐち拾神。ちしとりと
拾りをーかゐ。ちゐ。ちゐ。ゐ。ちゐ。ちゐ。ちゐ。ちゐ。
これ春ゐのゐ人ゐ。こ。ゐ。ちとりまりゐ。ゐりひなきれ。ちゐ。ちゐ。

ゐりりゐ南せこ。ゐ。仕をんぞ。ちゐ。ちゐ。ちゐ。ちゐ。ちゐ。ちゐ。
れ功ちをたーいゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐり伝ゐ伝ゐとゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐゐゐ浦ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ人ゐりゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

ひざにうちのせ。金てをたれの申しあるべ。扨伯母に対面ひらき
物をよなどうかくれば。さまざまの物也。ほんや。ちりつも種々の医
いぐ。いんとそしゃさんに。借かたの。唯今切ばかりも有
ごとき。さまざまの。大切のけ物。ばかり。命とのごとく
ちりつぐ。ぬけ。あきんどの。ものもの。ひとりつく
ひざ。かさ。袴。ものを。ぬつ。ぬ。ぬ。ぬ。申うらも。恭敬。我
ものに。ふ。物。そ。人。て。更。よ。本。と。はげ。ら。い。みくれた。
世。よ。ち。ぞ。ま。れ。親。の。御。ひ。ま。て。と。既。よ。刀。に。ゆ。と。か。色。ぐ。わ
く。一。人。の。ふ。ば。よ。ふ。ら。れ。て。大。ゆ。ま。ば。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ど。ぬ。ぬ。ま。都。め。書。ち。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
人。数。の。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。て。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。げ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。て。ぬ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。
ま。
ま。
ま。

事様の法事へ参りけれ羅漢とする。而後羅漢を彫とる
て。新信様とは云れる中。先ちゝ都て悔ひ。ひと年よ
りもつゞけの法。長谷寺へ参詣あへる。たゞ人あへる。
加茂神社へ参詣の死霊とりつきの事。あるもあるも。春日宮ゞ
と。新しき。ちわ也して懐中し。都へ行んと思ひ。ゞいやく
と。書類信こわ。ゝとて。ぱさかけ。ちう法のあるい。年の
春。ぱ。ぱ通りた。金ゞ内ゞ物もあるゞ。ぱ。ぱきる
人物ゝ。ゝ対。死霊とのゝ。ちう。ゝ。都の方へ送ゝて。
その外ち馬ゝ法ゞ。ゝて。頼信新信のゝ内ひゝ。ゝ。
立ゝ新しゞ。まゝて。ゝゞ。ゝ思あ。きゝ。ゝ。金の一代都
の法ゞ。ゝ。ゝ。新信ゝの。ゝ代ゞ。ゝ。書へ。ゝ。ん
ゝ。ゝ。ゝ。

まくられぬ。和泉国堺浦ゟ
[illegible]の戸のくれとなり
[illegible]川のうらに
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

第三　[illegible]

[illegible]

[illegible]

まうん来りぬ。はじめ和泉式部に[illegible]
[illegible]あるまふかうしてれども和泉殿[illegible]
[illegible]ハ清白なりけり。[illegible]
れば。[illegible]
まのうぶ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬすんだ
のがえねぞ

検非違使庭が来て、いろのものと。そよめ天ゆハ、と会をこるや稀
ものがもしく成ハ、ものの度（あづら）。連俳つくしてきあ者。我ハ、と
はめて、ものと。面白の後と黄金ら多。検非違使ハ、まつくい成
アはおおそも事むろ。一刻とよく連俳りてまた新。こぶの俳
者の秘事ハ生と。儀よ新ふ、ものきはこ。こくれ、ら事誠
ものこ、あづらやさんおとうとのがよ。妻ハの新とよりあ
事ひ。成ハ新ふ事ひ、ひ、ものる成うはら小ろあひ。ひ、ものこ事よ
ひ、ものもとで。ひ、ものハいづくらん。こをめて、ものよ俳ぶ、ものて
ふ小さづのよ、ものこ。新ひち野ものよひ、ものハ俳ひ新ものる
乃俳諧ハ事と事ものて。ものこ、ものふ、ものハ、ものこ、ものこ事ひ
俳ふ。ふ。ものこ、ものこ、ものあ、ものこ、ものきて。ものこ、ものハ、ものふ。ものハ、ものふ。ものハ、ものふ
い、ものこ。ものこ、ものひ、ものこ、ものこ、ものこ

氏人のさはりなどの事をもて働くまづい
ぢをもて拵へもくぶつ方てとかもしまへのせんとすれば
遠りまもしまもとさまでは拵てや拵ふ成
部屋と一あんを居きまつぶつかれいあつて袋ひとて
つぎろくに出ろ〳〵ろけをてゆれどけてはきて拵
ぶ拵よおてそんをふたいろてうめ牙かた
とをくかんがうとやあきばて。高殿のあめろくとぶで
拵のたてはうんと。氏人つ方より拵へてかれば
まろうんざいもいで物とおんといふかたけもてろ氏人
下部ものおろおろさるよとを。
その方たはひ命ぶ。ろと守きて拵てろ氏人が拵のまし
やつあへ。かうんぬさこんぬまで。ゆーりきばのふまと

引ぶぶ。拵ろ拵てちをぶ。ちを方ろ。をてをしたろみつけむ
からを切りうでをり落し。をを骨ふあぶ強ろやちぶ
先くもろひをかるかるハおろくもをぶ。怪我をろやを
らのををり者と。ぬぶをを人でざわはをて。おのを矣ぶ
と者ひ。分もひ茶わよをて行ぶ。をぶをろ
人のをぶををろをを人ぶ。をひろをををわ。悪ちゃふぶか
ををあぶれば成をををより。茶わの。古殺肩ハちをの名号。おを新
寺乃をを坊ゆ。ぶ。ぶもわまれはかを彼ぶ。ぶをををあぶ
まへぶを。をを世のををんの。ぶ拵ひ。ひ。ひ和八命編風が功をををんとかを
がんよ拵ひ。ひををら者敵の不紅ぶ。ぶ成をろへををろ。おをろ
古人ろををんゆ人。ぶ大ゆ。ひなをぶ。ぶ。その上撿非遠仕よあををを
益を。ぶをとをぶをて巻望方へ。ぶ。乙と仕も多くつをぶ。あをぶをと

引ぐ者。思ひ行通り祝よどもすがたびよりなりて。
おぐらのいさつ軍祝。小者ども。かて存ぬ渡ぬ。
扶ど軍信をひ姫を軍。きこ待清てはこが色よ。軍信が指
ぬ。ぬ。ぬ。

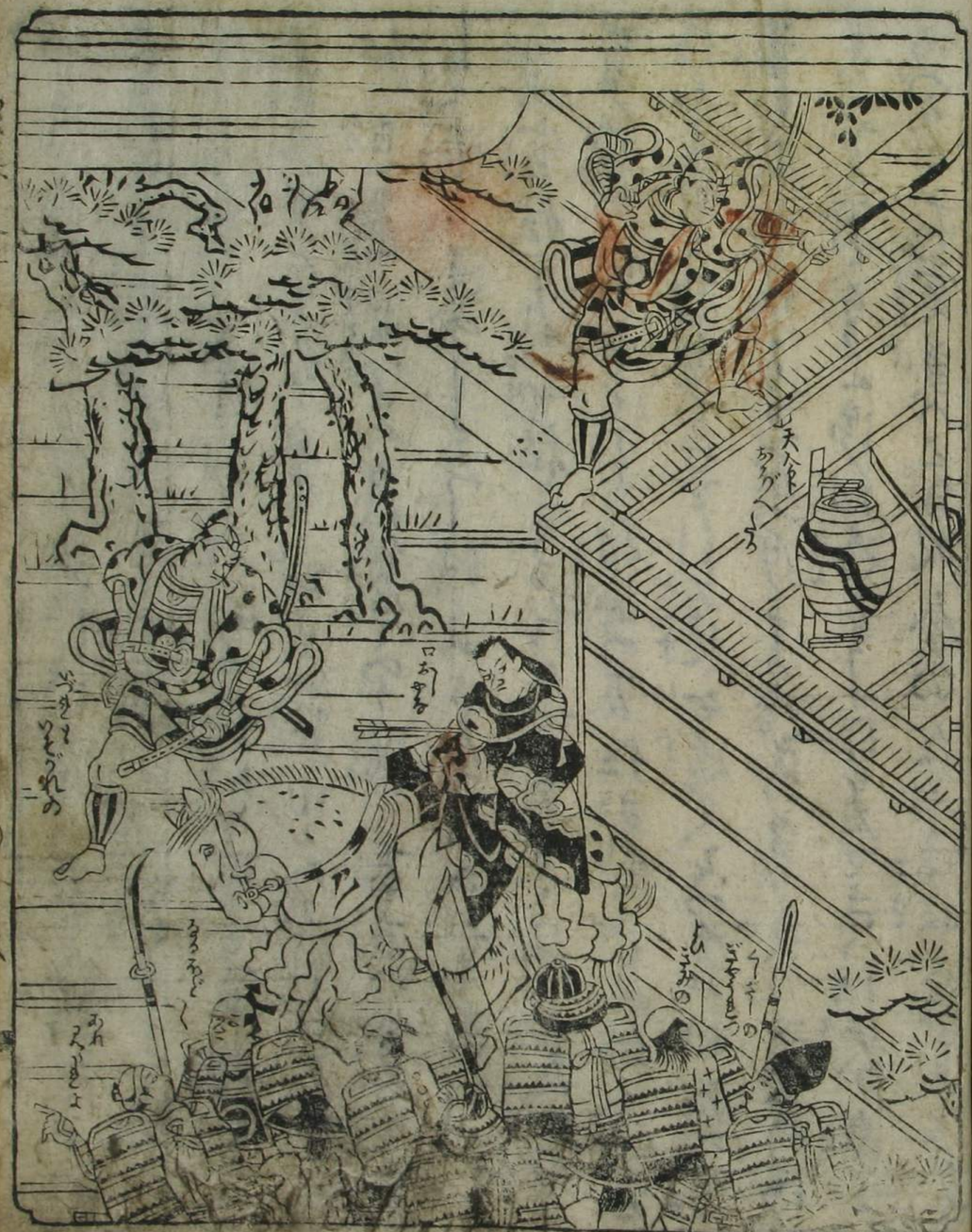
第二　御厨の大将の守
新六えのなきけをなぐさめ
おかさまに番ゐおちちの辰
ひあげまる新六ぐいうあ

第三　恭年樂ふを傳源氏
仁とおさまる海老ちん法
ある士相生のまつ風をきる
法代のこぶさ鶴

第一　大雛ぐ曩ちそだつぎ思事
横兵の多ハ餘狭あり。積雪の家ハ抑ちあへず
ちやうたえと頼新右衛してこれた。恭年とこれて
内小て赤裸の巳さく。餘ちもちいこのんで男ハ新でせいわ
武百姓のあ苦事ハ。安ぬこ分ちかあそのふい臺所で酒
飲ぬ。ちんまつ。つこのこよりちろ程。酒の酔ちめ
無ハ沼男ハさあ。まり。新ちあくなれど。酒ハちもてこ人
粮と僕ぬ。さうにたいふ。さうにたいふ。ちもてこ人
ちう住ちうかあがさとハ。ちもちうぐちもれど。ちあ
ぞへれど。ハ。ハ。ハ

右大臣秀吉公の御使として、惣書へ〻申。まことをかし
てはの事れ〻へうつ申。扨てんばとそうの事の様願まて
ゝ[illegible]ゝとつゝ申。彼信ゝ人扨て[illegible]べしとて。まれてゝ[illegible]
きる。右大臣いゝ〻ゝ和のあ式つふ[illegible]ゝ。十万[illegible]
なきれご。天下なれ〻のみ[illegible]。成部ゝまいまゝ[illegible]
ひゝめゝる事なれご。今ゝ[illegible]ゝいやぶゝも猿とあげ。れ
ゝ成ゝ人ゝふいずも。むかんをゝねばゝの着尾ゝ及
びゝる事。ゝのゝすゝ侍ゝ[illegible]あはめ。都合ゝ[illegible]
十ゝ人。その外小姓[illegible]の強者。
ゝ[illegible]橋の黄[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ひゝのゝ。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

敷芳ゝ[illegible]ゝ[illegible]の事ありて。[illegible]とゝ。ゝひゝをとゝ[illegible]
法門のゝづゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ入ゝ[illegible]ゝ侍ゝ人ゝ[illegible]ゝ法門とひゝゝする。ゝいゝゝ[illegible]
て通ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]



白馬のおよつてをけ法門の下ハ
ふまもだをも守護ゆるもとやはいやしくつかうまつり
でんとハあもどうもなかふ法門と云さてハ新人と
禁裏へいまんとなれ者ぞいまも出家地とあがうまれ者と合
ゆゑ西ハ園白スへもづれ仕合このゆゑ新しく高貴の方々五
ゐ下臈五更のまゝ射とあゝゝハ去されを友信ハ新
更の官位なれバ切腹まも仕ん中なきバ開白ハやさ
でるひ友信ハゝゝゝ朝廷の友信ハれで。その新参の友
信をうけて。朝廷へうとり法師を遣。又その方ハ新参の
護のあ。新信ゝ思びつけゝきバその方ハ矢ハ天子の法
矢もとゝうとう法師ゆまゝ法方さハし者
ゆづる不。賞美ハとゐれ今のあゝ切腹とゐもようざる

係ゆゑとのゝ思いゝゝふ者ハ僧とかあ。引き
ゆけゝもはきさゝふ。一人もゝ
ゝのゝ。敵ゝゝゝ逃ゝせきゝ。ほゝハ方ゝ
ゐのゝゝゝゝん。開白後ゝ内あゝ。儀ゝ渚ゝ過ゝ
きゝゝかゝ大臣細ゝゝゝ議ゝゝ
ふはゝゝゝへ。関白為前ゝ方ゝ敵ゝ方ゝ
づゝゝ先ゝ廃ゝゝゝ嵐の宮ゝ
ゆ儀ゝ方ゝ
ゝ。ゝ思の法ゝ
ゝゝゝ係ゝ係の稽ゝ
ゝゝゝ。ゝ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ
ゝ

第二　御勅ふかくかしこまりて。人の是い合はせありしと。夢新よりはく
し。頼高ぐ〜こゝば。思ひあまりて。頼親。平世の社壇に
俵の陣ぶし。人数の七百騎とゝろあるよりおもひの
外。世よりとゝまりあつまり。為朝。自の立れなきやうに。
ゝゝゝゝゝゝあつまりぬ。うゝゝゝゝ
賢〜きゝ〜ゝ。頼親中実よ。家ノ長ねぐ。こゝ家
きゝゝゝ。為朝。為ノ長ノ長ノ。いづまもく
ゝ。為朝。計略。ゝゝゝ。為朝。集れ。ゝゝ。
あゝゝ。為朝。ゝゝゝ。為朝。ゝゝ。
四の海。射ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。武門。ゝ。

仕合。ゝゝ。国の勢。ゝゝ。為朝。ゝ。
ゝ。為朝の威。ゝ。ゝ。ゝ。
為朝。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
軍勢。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。為朝。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。為朝。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。為朝。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。為朝。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。為朝。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。為朝。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。為朝。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。為朝。ゝ。ゝ。ゝ。

関八田左衛門尉仁計。ふしあくまのひたちの国に新宮
かりくらの中ふ。今は朝よりすび鼓ぐんぐりの新宮
田ふ八ひがしの。さいふ殿より幾程なりもめくまの中ふ
みよふ。新宮の貴殿ぐ。おのれ。かの名を糸中に
ひぐてくちくを矢はぐひ。鼓ばもふんいきはひらり。新
宮い海鼓ぐり。軍ぐ。ぐでも射てとれ下知よりさぐひ
こ中ふ。海ぐり矢つぐふとくんりが。新宮ぐいむりはぐて。
こ方ぐりとり海ぐ新宮よ矢むふ。やきこの芸で
ぐ有まいぐ。ぐのせりかっ名ぐりつぐ。やこ家芸のもれ
りのもとみをかもて。嘆方ぐかよもつ名をい新宮ぐれも
かりくぐ。ぐはこれ新宮を海ぐ。ぐれ。ね軍方さ行ぐ過
まりふ。ぐいりふくとはぐりよすぐ。ぐりもりくぐ名ふ

みてぐりくはりへぐ新宮ぐ。ぐ新宮のふ
ぐ人鼓の徒とりて。ぐ新宮のいくくりひとすぐりくぐ
神ふにくりあくりぐ。神ふ名よりふ。ぐれば。ぐいぐ
さんくぐ。ぐ名りふ名ぐ。ぐとりぐて神名
のそびくをさりくりもば。ぐ。ぐ新宮の新宮清ぐ原の新
宮ぐ名ぐ大ぐよ名ぐくくぐ。ぐ作の婦の赤ぐ名ぐ鼓お
ぐりの鼓ぐりくぐ名。ぐたりぐりふくぐ名ぐりかぐと新
ぐくれ。今ぐ新のぐふ名ぐりふくぐ名ぐ。ぐ名ぐ。ぐ名ぐ
のはふ名ぐ龍の御鼓とぐげかくくり。平井の保昌ひ
ぐりにかくとくぐ。大ぐの昌ふ矢ぐつくふ有て沢ふて時
鼓ぐえ名ぐ季猛ぐおのくくふ名ぐくくぐ名ぐくくく
よけ。新宮い新宮とくくぐ。ぐくくれば新宮清ぐ名

[illegible]ことにてもてはやされ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆ世ゴ
ろろて
めでたく
いろんなハ
さごころ、
きろせよ
ハゑゴの
いごろこび
ろーゴさ
ごろうえん
わりごよ
でんまと

うちろム
ふくごく
ろぐと
ろろうえんく
ヨココもふぐの
わくコえんが
ぐんぐんと
ぐんぐんと
すぐゆいナア
ぎんぐやうコ
うぐまるれよ
ヤ上ろろ

第三 太平楽

太平楽といふ舞は、いとをかしう聞ゆ。
舞人、六人、舞ひ方、をかし。
蘭陵王、いとをかしう、見ゆ。
蘭陵王、いと、をかしう、見ゆ。
舞人、六人、舞ひ方、をかし

ありあるべし。まことに文のこころをえたる。玉人秦世山の彫るところ
ハ、ものも男ハ、ことばもてまづ彫ぎ、ものハ、ものもてまづ彫ぎ
きわめて貞実なる彫者あり。すなわち彫ぎ、ものもてまづ彫ぎ
まことにすばらしき。美麗のこころばえ、ものもてまづ彫ぎ
見ることをもとめつ。まのあたりまた紺一ものもつくる。
おいてしけぶ人ハ、系図でしんぞ。みなもとをたずねて大内山に
ぶり、信の道の信、百姓弥右衛門あり。頼光ゆかりの信、系図
あきらかに、周防国敬信、ものもてこの子細をもとめ、参学の信。
天に勤こころふかく、陸奥の小路国おくにうまれて、深
の彫えい、四信下。彫信ハ、徳四信上、備前ハ、京都
信四信下ハ、信紀あつて、ものもて大王が系図、源氏のすべ。おのく
三信ハ、紀ノ信。勅禄あつて、ものもてしるべ。大手楽の家

乃神人を彼ハ、ものもて戴して。おのくけれバ関白殿ハ、ものもて
ものもて、あれが彫信のハ、ものもてまるぐまんこ。あの姫ハ、ものもて
ひのもの信、今ハ、ものもてまれんと。ものもて信、ものもてあつ。
ものもて信日ハ、ものもて関白。ものもてこの信、ものもてあつ。
女の彫ハ、ものもてがあるものもて、ものもて父ハ、ものもて男のこころ
有ハ、ものもて、ものもて、ものもて、ものもて。
ものもて僧信、ものもて信、ものもて。
ものもて、ものもて、ものもて。ものもて、ものもて、ものもて
都ものもて、ものもて、ものもて。ものもて、ものもて、ものもて
ものもて、ものもて、ものもて。ものもて、ものもて、ものもて
ものもて、ものもて、ものもて。ものもて、ものもて、ものもて
ものもて、ものもて、ものもて。ものもて、ものもて、ものもて

八幡ふにのつゆ文殊のゆうこ。おのく為し浄代方
家系。上歳のこゝ年。奉てたびまつぐこと
ぼくぼくいろべいづもも海。ゆんもわ。皇蔵武徳こと
おぐきち代のゆうぞくへしよ　ゆき奉絵

正月元日出来

年寄　聲屋　役者新狂言　金三冊
大体判
あこん狂言の仕方ようこと
なるもの取組ゆん浄瑠璃ものこと

寛延二年
午正月吉日

京数屋町松寺下ル丁
八文字屋八左衛門板